

一般質問通告書

令和8年6月3日

高島市議会議長 河越 安実治 様

高島市議会議員 1 番 高取 誠隆

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

・質問番号1の用紙にだけご記入ください。

・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

初問は { 1. 全項目一括質問一括答弁
2. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 1) 発言事項	行政サービスの維持・向上に向けた生成AIの活用について
要 旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	<p>本市では人口減少や少子高齢化が進行しており、社会保障関係経費の増加や公共施設の維持更新など行政需要が増大する一方で、行政を支える人的資源や財源には限りがあります。</p> <p>そのような中であっても、市民ニーズは多様化しており、行政には迅速かつ質の高いサービスの提供が求められています。限られた人的資源と財源の中で、今後も必要な行政サービスを維持・向上していくことは重要な課題です。</p> <p>一方で、職員が担う業務は多岐にわたり、市民対応や相談業務に加え、様々な内部事務への対応も求められており、限られた時間の中で多様な業務を担っています。</p> <p>私は、市民サービスを維持・向上していくためには、職員が市民対応や相談業務、政策立案などにより多くの時間を充てられる環境づくりが重要であり、そのためには事務作業の効率化による生産性向上が必要であると考えています。</p> <p>近年、生成AIをはじめとするデジタル技術は急速に普及しており、自治体においても業務効率化の手段として活用が進みつつあります。私は本年1月に横須賀市を視察し、生成AIを活用した業務効率化の取組について学ぶ機会を得ました。</p>

横須賀市では生成AIの活用により、年間約22,700時間の業務時間削減効果が試算されており、職員の負担軽減や業務効率化につながる可能性が示されています。こうした事例は、限られた人的資源の中で行政サービスの維持・向上を図る上で参考になるものと考えています。

そこで、行政サービスの維持・向上という観点から、本市における業務上の課題認識と、生成AIをはじめとするデジタル技術の活用可能性について伺います。

(1) 行政サービスの維持・向上に向けた課題認識について

- ① 限られた人的資源の中で行政サービスを提供していくに当たり、現在、本市職員の業務負担が大きい分野や課題をどのように認識しているか。
- ② 職員が市民対応や相談業務などに十分な時間を確保していく上で、どのような事務作業や内部業務が負担となっていると認識しているか。
- ③ 限られた人的資源の中で行政サービスを維持・向上していくため、業務の効率化や生産性向上についてどのような取組が必要であると考えているか。

(2) デジタル技術及び生成AIの活用可能性について

- ① 前項で挙げられた課題の解決に向け、生成AIをはじめとするデジタル技術の活用可能性についてどのように認識しているか。
- ② 横須賀市をはじめとする先進自治体において、生成AIによる業務効率化の成果が示されているが、本市はこうした取組をどのように評価しているか。

(3) 今後の考え方について

- ① 行政サービスの維持・向上に向けた手段の一つとして、生成AIに関する情報収集や研究を進める考えはあるか。